

## 心優しいアフリカゾウ

アニマルフォトグラファー  
トラベルライター

平 岩 雅 代

日本国内の動物園に飼育されている動物の中で、子どもたちの人気ナンバー・ワンは、アフリカゾウだそうです。巨大な体に大きな団扇のような丸い耳、まるで人間の手のように自由自在に動く長い鼻。

アフリカゾウはその存在そのものが、他の動物に比べて、非常にユニークです。

地球上に暮らす生物の中で、22 ヶ月という最も長い妊娠期間を経て誕生するアフリカゾウの赤ちゃんは、体重が既に90～100キロもあります。成獣ともなれば、体重は5～6トンに達し、巨大な岩山のように……。

自然界でのアフリカゾウの平均寿命は60余年ですが、他の動物に比べますと、桁外れに長い数字です。

ところでアフリカゾウの社会は、母系の集団で行動します(写真1)。群れを統率するのは、年長の経験豊かなメスです。一方、オスは幼いうちは群れの中で、母親や兄弟たちと一緒に生活していますが、成長後は群れから出て、オスは仮の集団を作ります。多い時は数百頭ものゾウが一つの集団で行動を共にしますが、延々と続く“行進”は、まさに圧巻です。

ゾウにとってなくてはならない便利な長

い鼻ですが、子どもたちにとっては、厄介なお荷物のようです。母親や周囲の大人たちの真似をして、鼻を伸ばして水を汲んだり、足元に生えている草をちぎってみるものの、なかなか思うようにはいかず、とうとうかんしゃくを起こして、その場に座り込んでしまったり、いかにも邪魔だと云わんばかりに鼻を意味もなく左右に振り回してみたり、思わず「ガンバレ!」とでも声援を送りたくなります。

わずかに牙が生えかける位の、生後3～4年のやんちゃ坊やたちは、長い鼻と鼻をからめ合って力比べをすることもあります。オス同士は牙を使って力比べをしますが、時には余りの激しさに牙を欠いたり、折ってしまうことすらあります。

タンザニアにある巨大な火山の噴火口跡、ンゴロンゴロで出会ったオスのゾウは、片方のキバが根元からなく、若い頃の武勇男談を物語っているようでした。

アフリカゾウは心優しい、頭のいい動物だといわれており、身の危険を感じない限りは、決して自分から攻撃をすることはありません。また親子や仲間との絆を、実に大切にしています。



写真1 子象のかわいらしさは格別

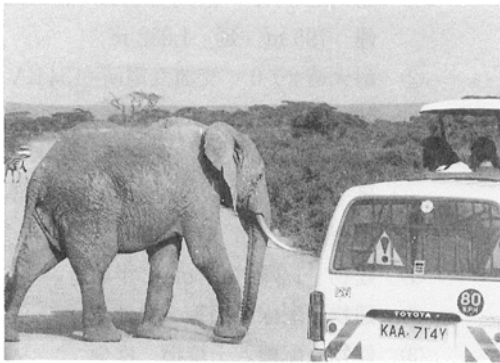


写真2 迫りっぱいの象

ある時、生後間もない赤ちゃんを連れたメスゾウを見かけました。その可愛いらしさに夢中でカメラのシャッターを押し続け、ふと我に戻った時は、すでに母親がだいぶ神経質になっていました。

大きな耳を広げ、頭を左右に振り回し、明

らかに威嚇のポーズです。もしもそれ以上追い続けたら、きっと母親は鼻を高く上げ、私たちの乗ったサファリカーに向かってきたことでしょう。巨大なゾウを車の勝負は、最初から結果がわかっています。今考えても冷や汗の出る一瞬でした。

反対に私たちの車のすぐ目の前にゾウが出てくることもあります(写真2)。そんな時は、あわてて車を動かしてはいけません。ただ静かにじっとして、ゾウの通過を見送るのです。

アフリカ大陸最高峰、標高5,895メートルのキリマンジャロを望むケニアのアンボセリは、ゾウの楽園といわれています。

アンボセリには湿地帯が広がっており、大量の草と水を必要とする大食漢のゾウにとって適した土地だからです。

水辺に集まったゾウは、とても賑やか…。子どもも大人も大騒ぎで水を飲んだり、水浴びをしたり……。中には全身を泥だらけにして、真っ黒になるゾウもいます。ゾウの周囲には、コサギやアマサギなどの鳥がいて、体についた虫を食べてくれます。ゾウにとって鳥は、まさに便利な“そうじ屋”というわけです。(写真は平岩道夫&雅代事務所提供)

#### 〈アフリカゾウひとくちメモ〉

▶東アフリカ各国(ケニア、タンザニア、ウガンダなど)で話されている公用語のスワヒリ語で、ゾウは「テンボ」と呼ばれている。ただし2頭以上の時は「ドゥーブ」と変化する。

▶野生のアフリカゾウが食べる草は、

1日当たり150キロ、飲む水の量は100リットルといわれている。

▶象牙はオス、メスともに生えるが、ケニアの首都ナイロビの国立博物館に展示されているオスゾウ“アーメッド”の牙は、片方67キロもある立派なもの。いかにも重そうです。